



(こぶし園小山剛氏のスライド)

こぶし園では施設の高齢者を自宅か、自宅に近い地域に帰すということをされています。かつてのこぶし園は定員100人の施設でしたが、「地域生活モデルへの転換」を目指し、介護施設の地域密着化を図るため、施設の分散を行なっているのです。小山氏の発想の原点は、「もし自分自身が介護を受ける立場になったとしたら、どうなりたいか」ということです。小山氏は、「私の笑ってきた人生は地域の中にあります。他者のとの関係の中で生きている」と考えられています。地域には、行きつけの本屋もあり、花屋もあり、居酒屋もある。友人もいる。もし介護を受

ける立場となつたとしたら、見知らぬ土地の施設に収容されることはなく、介護・看護サービスを提供しながら、住み慣れた地域での生活を継続したい。自宅で生活しながら、必要があるれば施設を通ったり、短期間滞在したり、訪問看護を受けたりする。自宅で生活していくうえで、食事の用意が難しければ、配食サービスをもらえるようにする。たとえ自宅での生活が難しくなつても、人里から離れた東の施設に移るのでなく、少なくとも住み慣れた地域にある施設で暮せるようにする。何があれ、大規模施設に入るかもしれない。これはあくまでも緊急避難だ、というのです。

一般に特別養護老人ホームは、終のすみかのようにとらえられていますが、小山氏によれば、これは間違いで「6~3年に施行された老人福祉法の第11条では、施設は在宅での介護が困難な人のための避難所の位置付けだたたなうです」。当時は多くの部屋で、食事も併せて同じ場所で行われ、「プライバシーも何もなかつたが、その組みはあまり変わらない」。施設は「今まで避難所であり、入った人は地域に戻してあげるべきだ」というのが小山氏の主張です。東日本大震災の後、学校の体育館が臨時の避難所になりましたが、その状況と同じようなものだとおっしゃるのです。一時的に避難された方はその後、自宅に戻られたが、戻る

74

75 第三章 ケア付きの地域をつくる

ことのできない方は假設住宅などに移られた。いつまでも体調管理で生活されているはない。同じように仮設地域社会の外にある相模集約型特別養護老人ホームのような施設に緊急避難的に入ることになつても、できるだけ速やかにその地域に戻つてこられるべきであり、そのためには、地域外の既存施設の機能を転換・分散することによって地域社会に取り込む必要があります。という小山氏の考え方です。小山氏は構想するだけでなく実践するため、自ら運営される、かつては100名の登録定員だった特別養護老人ホームの「こぶし園」を分解してしまったが、このとき、次の三つのことを目指されたそうです。

- こぶし園を、地域で暮らすことを支えるための施設にする。
- 施設はあくまでも緊急避難所であり、避難の必要がなくなれば、元の暮らしに戻せるようになる。
- ケア付き住宅や施設ではなく、ケア付きコミュニティを構築していく。

これらの目標に積極的に取り組み、現在では15名から20名までの規模のサテライトイト

76

型の施設を街中につくり、そのそれぞれのサテライトの周辺に規模多機能型居宅介護施設などの介護サービスを密着させて配置しています。これで分室見守りが可能となるとしています。長岡市にある本家のこぶし園の施設に30名が残っているそうですが、2013年中には本体の30名も町へ移動する予定となっているそうです。

「当時は60部屋で、食事も併せて同じ場所で行われ、「プライバシーも何もなかつたが、その組みはあまり変わらない」。施設は今まで避難所であり、入った人は地域に戻してあげるべきだ」というのが小山氏の主張です。この原案は摩鹿奈衛省が示した2012年度の予想図に基にしたものですが、現在はす

ほどです。

雇用の問題

小山氏の構想は高く評価されており、小山氏の図は厚生労働省も資料などで使っている

ほどです。

介護施設は終のすみではない、あくまでも避難所なのだから、できるだけ速やかに住み慣れた地域に戻れるよう努めるべきであり、そのためにはケア付きコミュニティをつくればいい。そのためには、地域外の既存施設を分解してこられるべきです。この小山氏の取り組みを一つのモデルとするのが24時間定期巡回・随時訪問のシステムです。東日本大震災の後、学校の体育館が臨時の避難所になりましたが、その状況と同じよう

なものです。

一見無理のようと思われる24時間の見守りも、特別養護老人ホームであれば、当然前

を対象として考えているということです。

地域社会を一つの施設に

77

型の施設を街中につくり、そのそれぞれのサテライトの周辺に規模多機能型居宅介護施設などの介護サービスを密着させて配置しています。これで分室見守りが可能となるとしています。長岡市にある本家のこぶし園の施設に30名が残っているそうですが、2013年中には本体の30名も町へ移動する予定となっているそうです。

か参入できるかもしれません。

か参入できるかもしれません。